

公園ボランティア実態調査2024 - 全国自治体編 -

一般社団法人みんなの公園愛護会では、公園愛護会・アダプト・自主管理ほか、様々な制度で行われている市民の公園ボランティアに関して、全国の市区を対象にその取り組みを調査しました。

調査の趣旨

公園愛護会ははじめ各自治体で行われている市民の公園ボランティアに関する実態と現状を多角的に把握する。高齢化および担い手不足が課題とされる一方で、地域の公園と公園コミュニティの価値・まちの緑の質が見直される今、住民による地域の公園への積極的な関わりをサポートする際の参考にする。

調査方法

期間：2024年8月～9月

方法：インターネットフォームおよびメール

対象：全国の市および東京23区 計815自治体 公園の管理や運営に関わる担当者

調査結果

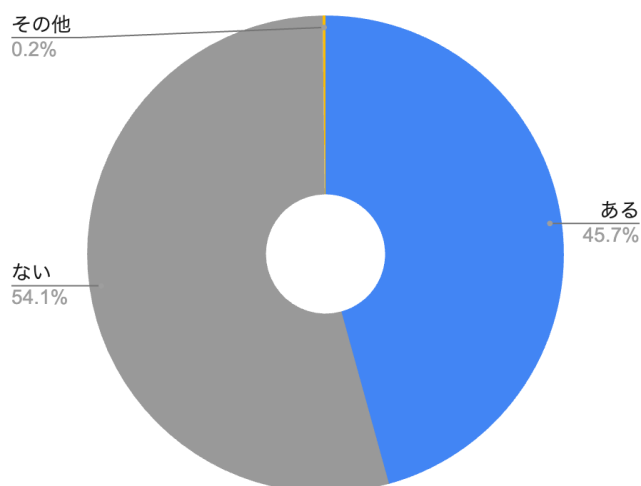
回答数

回答数：512 件

回答率：62.8%

1) 公園ボランティア制度の有無

【Q】公園ボランティア制度はありますか？



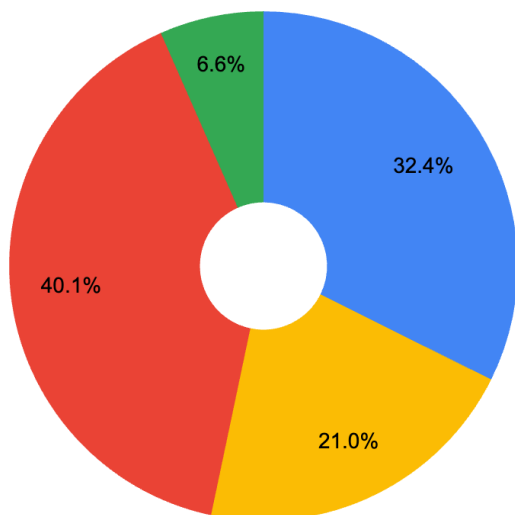
ある	234	45.7%
ない	277	54.1%
その他	1	0.2%

公園愛護会・公園アダプト・自主管理制度など、身近な公園での清掃や花育てに関する制度の有無。

回答のあった512の自治体のうち、「小規模公園対象の公園愛護会のような制度はないが、講座修了生などが個人で登録し大きな公園で活動するタイプの制度ならある」という回答も含めて、234自治体（45.7%）に公園ボランティア制度があることがわかった。

2) 支援の方法や内容

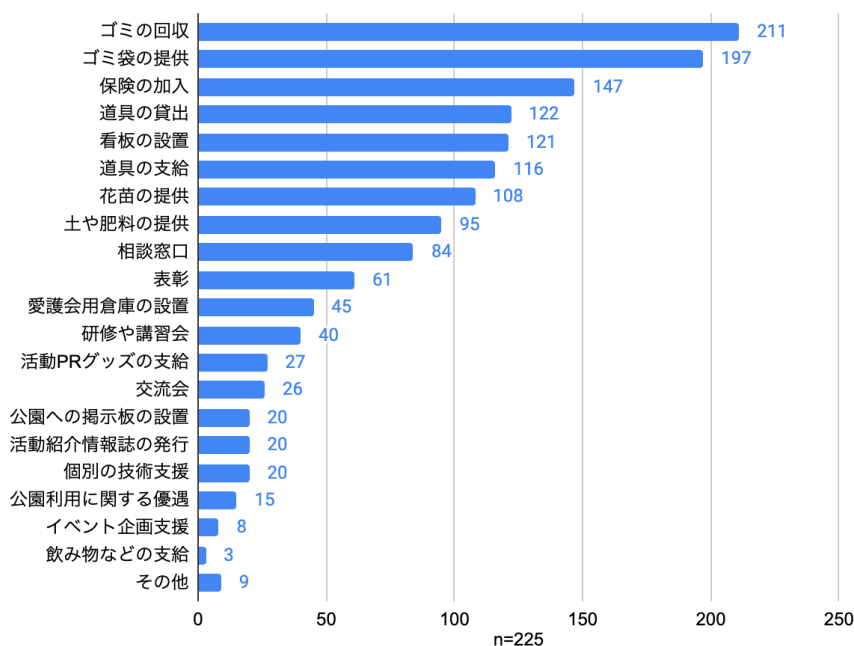
【Q】支援のタイプを教えてください



報奨金などのお金	88	32.4%
お金+物品	57	21.0%
物品での支援	109	40.1%
その他	18	6.6%

公園ボランティアへの主な支援方法について聞いた設問。複数の制度がある50自治体を含めた222自治体から272の制度についての回答があった。最も多かったのは**物品での支援**（40.1%）、次いで**報奨金などのお金**（32.4%）だったが、**報奨金などのお金と物品の両方**のサポートがあるケースも21.0%あった。

【Q】支援金以外のサポート内容について該当するものをすべて教えてください



ゴミの回収	93.8%
ゴミ袋の提供	87.6%
保険の加入	65.3%
道具の貸出	54.2%
看板の設置	53.8%
道具の支給	51.6%
花苗の提供	48.0%
土や肥料の提供	42.2%
相談窓口	37.3%
表彰	27.1%
愛護会用倉庫の設置	20.0%
研修や講習会	17.8%
活動PRグッズの支給	12.0%
交流会	11.6%
公園への掲示板の設置	8.9%
活動紹介情報誌の発行	8.9%
個別の技術支援	8.9%
公園利用に関する優遇	6.7%
イベント企画支援	3.6%
飲み物などの支給	1.3%
その他	4.0%

公園ボランティアへの支援金以外のサポート内容として最も多いのは、**ゴミの回収**（93.8%）と**ゴミ袋の提供**（87.6%）。次に、**保険の加入**（65.3%）、**道具の貸出**（54.2%）、**看板の設置**（53.8%）、**道具の支給**（51.6%）、**花苗の提供**（48.0%）、**土や肥料の提供**（42.2%）と続いた。

活動をしやすいするための**倉庫の設置**や**掲示板の設置**、技術的なサポートとして**研修や講習会**や**個別の技術支援**、モチベーション向上のための**表彰**や**活動PRグッズの支給**・**交流会**・**活動紹介情報誌の発行**・**イベント企画支援**など、さまざまなサポートが行われていることがわかる。

追加のヒアリングによると、このうちの6割は、既存制度の再編やリニューアルで、4割が新設。より多くの人が関われる仕組みや、活動場所を公園に限らず広くカバーするなど、関わりや選択の幅を広げたケース、活動実態に合わせて基準を統一したケースなどがあった。また、講座修了生が継続して活動するボランティア制度や、公園再編と一緒に維持管理を考えて制度を新設したケースもあった。

4) 活動の状況

【Q】活動されている団体数と公園数を教えてください

今回の調査では、様々な制度の下で、**30,882の団体**が、**33,417の公園**でボランティア活動を行っていることがわかった。

【Q】主な担い手はどのような方ですか？

	とても多くいる	ある程度いる	少しいる	全くいない
自治会町内会の有志で継続して	63	136	53	14
自治会町内会の役員で持ち回り	32	102	70	37
花や園芸好きの地域の人	40	83	101	21
企業や社会福祉法人	8	29	99	95
子育て関連グループ	1	21	86	121
その他	8	35	67	75

▲とても多くいる＝20pt、ある程度いる＝10pt、少しいる＝5pt、全くいない＝1ptとして色分け（●＞○＞●＞●＞●＞●＞○）

227自治体から、266の制度で活動する主な担い手について、どのような人々がどのくらいいるか？を聞いた設問。

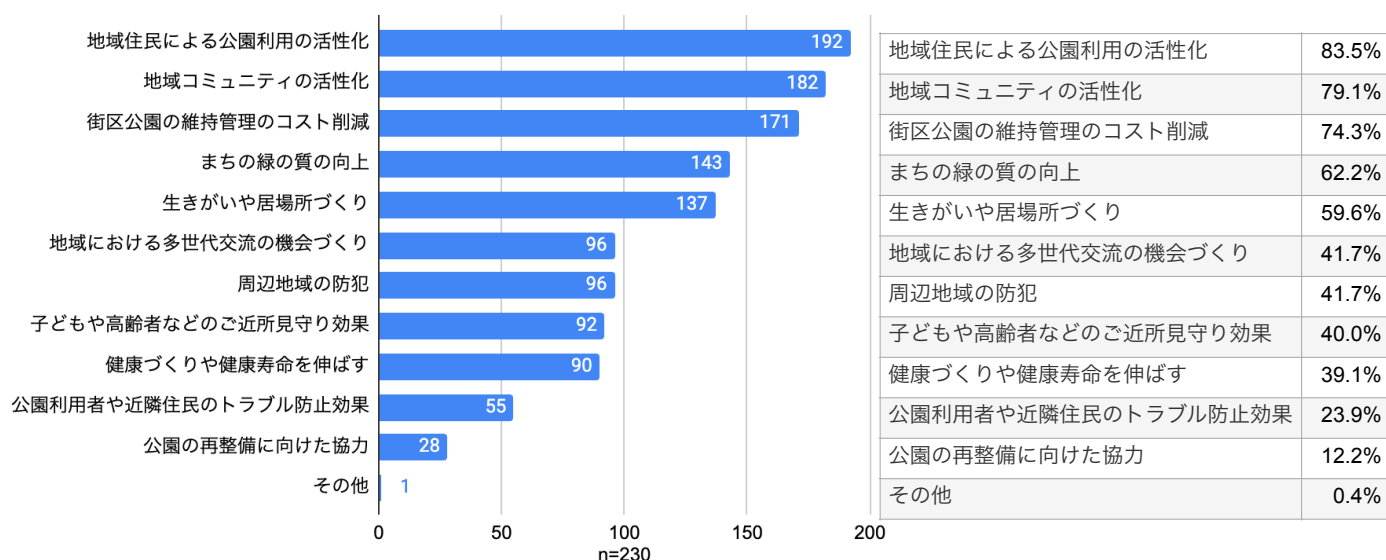
自治会町内会の有志で継続して活動するグループが、とても多い／ある程度いる含め、地域を問わずもっとも多かった。**自治会町内会の役員で持ち回り**で活動するグループも多く、町内会全体で取り組んでいるというケースも含めて、地域の人々が広く関わっていることがわかる。

自治会町内会という地縁団体以外では、**花や園芸好きの地域の人**が多く、回答のあった91.4%の地域で存在しており、自治会活動とは別の顔ぶれが集まり地域の公園の環境美化や花育てに関わっていることがわかる。

また、活動団体数に関わらず、企業や社会福祉法人、子育て関連グループが担い手として存在している地域はそれぞれ58.9%（企業や社会福祉法人）、47.2%（子育て関連グループ）あり、多様な担い手の存在が見られる。

5) 公園ボランティアの価値や効果

【Q】公園ボランティアがもたらしている価値や効果は、どのようなことがありますか？



1位は、**地域住民による公園利用の活性化**（83.5%）。次いで、**地域コミュニティの活性化**（79.1%）、**街区公園の維持管理のコスト削減**（74.3%）、**まちの緑の質の向上**（62.2%）、**生きがいや居場所づくり**（59.6%）が続いた。

そのほか、**地域における多世代交流の機会づくり**、**周辺地域の防犯**（ともに41.7%）、**子どもや高齢者などのご近所見守り効果**（40.0%）、**健康づくりや健康寿命を伸ばす**（39.1%）も一定の効果があることが評価されている。

維持管理コストの削減だけでなく、それ以上に地域住民による公園利用の活性化や地域コミュニティの活性化という点で効果があると多くの自治体担当者が捉えていることがわかる結果となった。

猛暑の影響もあり草が伸びるのが早い中で、ボランティア活動による草刈りが行われている公園は綺麗であり、周辺住民より草に関する苦情が来ることもない。公園管理担当者としては非常にありがたいというコメントもあった。

6) 課題と対策

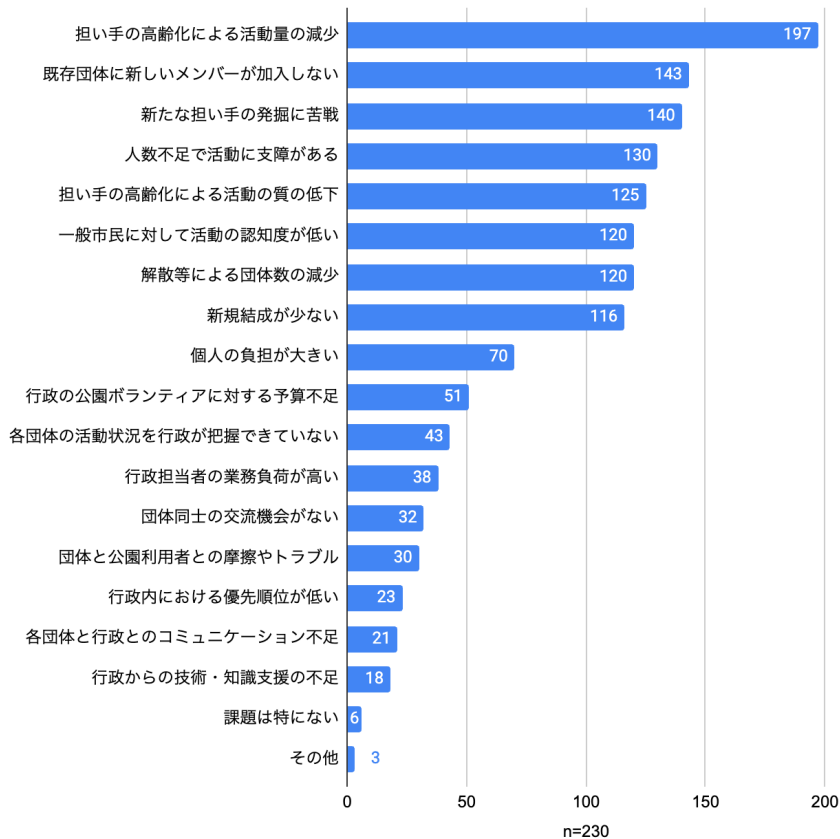
【Q】公園ボランティアが現状かかえる課題は何ですか？

ダントツで1位だったのは、**担い手の高齢化による活動量の減少**（85.7%）。

続いて、**既存団体に新しいメンバーが加入しない**（62.2%）、**新たな担い手の発掘に苦戦**（60.9%）、**人数不足で活動に支障がある**（56.5%）、**担い手の高齢化による活動の質の低下**（54.3%）、**一般市民に対して活動の認知度が低い**、**解散等による団体数の減少**（ともに52.2%）、**新規結成が少ない**（50.4%）が上がった。

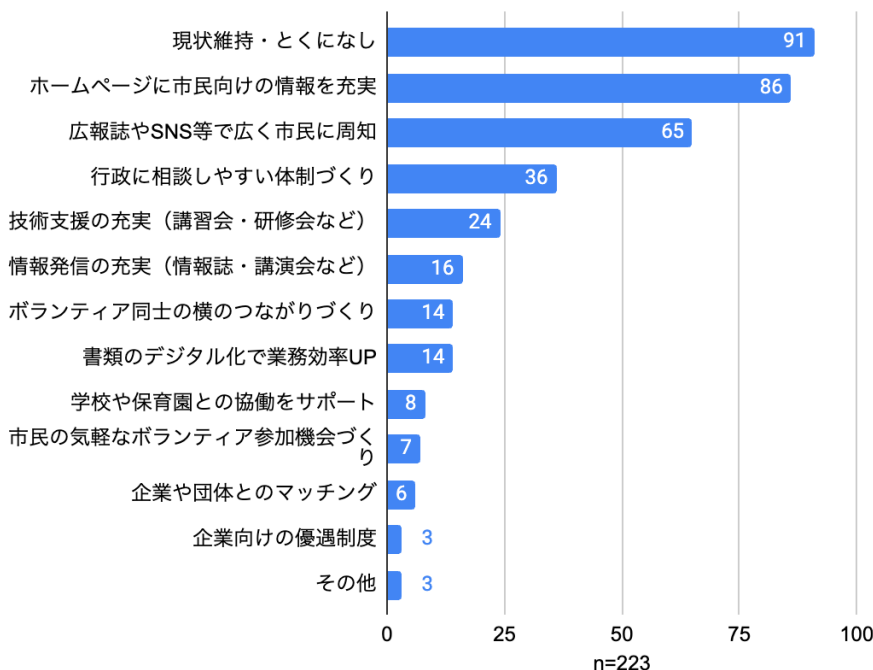
回答者の半数以上が、担い手の高齢化に伴う活動の縮小と、新しい担い手の発掘が難しいことを課題だと捉えている。

公園ボランティアが現状かかえる課題



担い手の高齢化による活動量の減少	85.7%
既存団体に新しいメンバーが加入しない	62.2%
新たな担い手の発掘に苦戦	60.9%
人数不足で活動に支障がある	56.5%
担い手の高齢化による活動の質の低下	54.3%
一般市民に対して活動の認知度が低い	52.2%
解散等による団体数の減少	52.2%
新規結成が少ない	50.4%
個人の負担が大きい	30.4%
行政の公園ボランティアに対する予算不足	22.2%
各団体の活動状況を行政が把握できていない	18.7%
行政担当者の業務負担が高い	16.5%
団体同士の交流機会がない	13.9%
団体と公園利用者との摩擦やトラブル	13.0%
行政内における優先順位が低い	10.0%
各団体と行政とのコミュニケーション不足	9.1%
行政からの技術・知識支援の不足	7.8%
課題は特にない	2.6%
その他	1.3%

【Q】上記の課題にどのような対策をされていますか？



現状維持・とくになし	40.8%
ホームページに市民向けの情報を充実させている	38.6%
広報誌やSNS等で、公園ボランティアを広く市民に周知	29.1%
ボランティアから行政に相談しやすい体制づくり	16.1%
技術支援の充実（講習会・研修会など）	10.8%
ボランティアへの情報発信の充実（情報誌・講演会など）	7.2%
ボランティア同士の横のつながりづくり	6.3%
書類のデジタル化で業務効率UP	6.3%
学校や保育園との協働をサポート	3.6%
市民の気軽なボランティア参加機会づくり	3.1%
企業や団体とのマッチング	2.7%
企業向けの優遇制度	1.3%
その他	1.3%

公園ボランティアが抱える課題対策については、**現状維持・とくになし**（40.8%）が1位、**ホームページに市民向けの情報を充実させている**（38.6%）、**広報誌やSNS等で、公園ボランティアを広く市民に周知**（29.1%）、**ボランティアから行政に相談しやすい体制づくり**（16.1%）と続いた。

7) 注力している取り組み

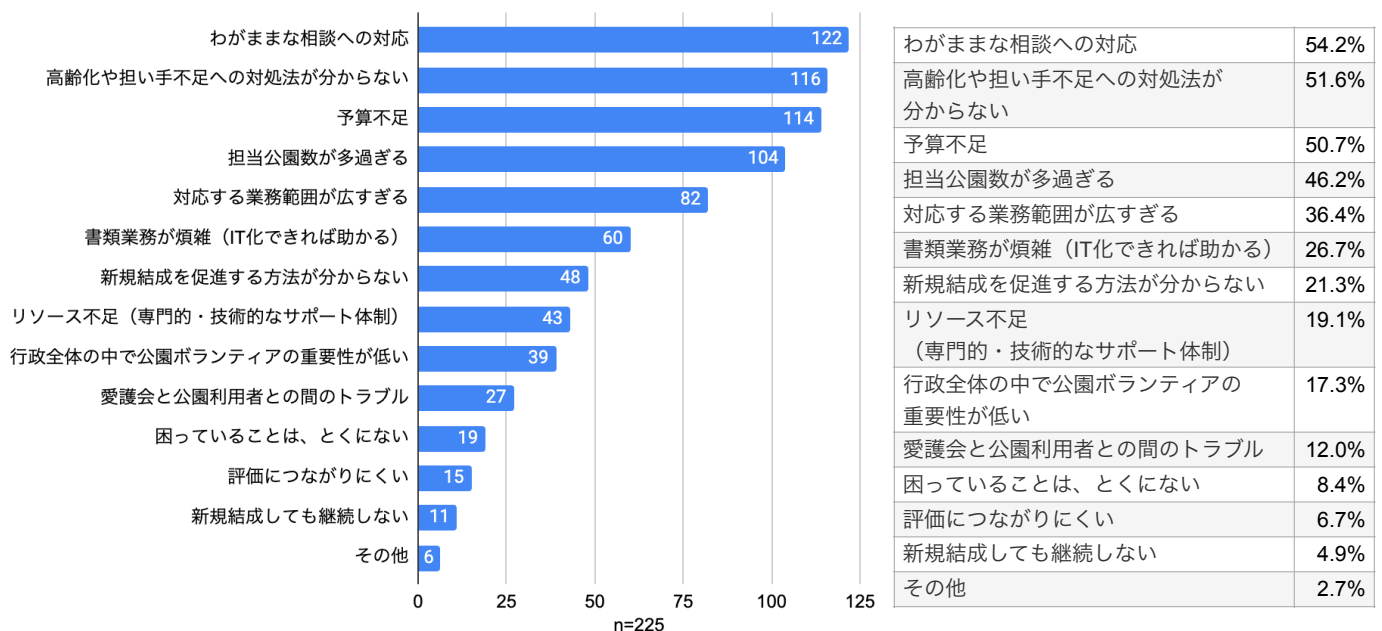
【Q】公園に関連して、最近注力している取り組みを教えてください

利活用推進の取り組みに関するコメントが最も多く、14の自治体からコメントがあった。また、**公園のルール柔軟化や適正化**（10自治体）、**公園再編・機能再編**に関して（9自治体）、**公園利用者アンケート**（7自治体）、**企業と連携**した公園の管理運営（6自治体）、**長寿命化**に関する取り組み（6自治体）、**樹木管理**に関する取り組み（5自治体）、**インクルーシブ遊具**の設置（5自治体）などが多く上がった。

また**ボランティア支援**に関しても、活動情報誌の発行や広報の充実、技術支援、貸出草刈機の配送回収の委託化、表彰式や交流会の復活、ボランティア団体の結成推進、団体とボランティアのマッチング、ボランティア制度の新設など、多くの取り組みが注力して行われていることがわかった。

8) 担当者の思い

【Q】担当としての困りごとや課題はどのようなことですか？



担当者としての困りごとや課題については、**わがままな相談への対応**（54.2%）、**高齢化や担い手不足にどうサポートしていいか分からない**（51.6%）、**予算不足**（50.7%）の3つに、回答者の半数以上が課題を感じていることがわかった。

【Q】担当としてうれしかったエピソードを教えてください

ボランティアが生き生きとやりがいを持って活動する様子や報告、要望や相談の対応への感謝など、ボランティアとのコミュニケーションがやりがいになっている回答が多かった。その他にも、公園利用者からの声や、公園の景観や地域の変化、ボランティアや公園利用者の喜びが担当者自身の喜びにも繋がっていることなど、様々な声があった。

（一部を紹介）

活動する様子から

- ・ボランティア団体の方がいきいきと活動していること
- ・書類で花の苗を支給の許可を出しているが、実際に植わって大きく成長している様子を見たら嬉しく思う
- ・各公園の花壇がそれぞれ特色があり華やかになっていること
- ・暑い時期に現場に出た日、ボランティアで清掃する方を実際に見かけた時に頭が上がらない思いを感じる
- ・若年層はボランティアに積極的に参加するイメージがなかったため、大学生の団体がアダプトプログラムに加入し、公園の美化に努めてくれていることがうれしかった
- ・行政への関心が薄れている中、地域住民が地元の公園を管理する意識で取り組んでいることに感動した

ボランティアとの交流から

- ・苦情、要望に対し、迅速に対応し感謝された時
- ・ちょっとしたお礼の言葉をいただいた時
- ・ボランティアで植えた花が満開になると報告してくれること
- ・愛護会と行政の連携を強化し感謝されたこと
- ・清掃用具の配布や花植え、窓口対応にて愛護会会員と親しくなり、顔を覚えていただいたり労っていただけたこと
- ・雑草が伸び放題だった公園が、ボランティア活動により見違えるほどきれいになり、散歩等で訪れる公園利用者が増えたこと、またそのお話を嬉しそうに話してくれてやりがいを持って活動をしてくれていること
- ・公園利用者からの感謝の声を、ボランティア団体と共有できること

公園利用者からの声で

- ・花壇を区民の方に褒めていただけたこと
- ・ボランティア活動による花壇づくり等で参加者や市民に笑顔が増えたこと
- ・ボランティアや中学生による花壇整備で公園管理の大切さを知ってもらい、利用者から感謝されたこと
- ・ボール遊びおすすめ公園マップを作成公表し、お褒めの言葉をいただいたこと

活動スタートや活発化

- ・地域の自治会等から「地元として何か力になれることはないか」などのお声をいただき、公園管理団体の増加につながったケース
- ・地域の公園周辺に住む方がボランティア活動を行い、知り合いになることで、公園を見守っていただき、日々報告をいただけるようになり、管理の質が向上した
- ・公園愛護活動がきっかけで自治会活動が活発になったこと

イベントで

- ・遊具塗装イベントを地域でやって楽しんだこと
- ・ホタルの育成をしていてたくさん子どもたちが喜んでくれたこと
- ・公園の特徴を生かした農作物収穫体験等のイベントを開催し参加された市民の方等が喜ばれたり、開催した緑ボランティアさんも喜ばれている時

【Q】ユニークな活動や先進的な取り組みをしている団体、いいなと思う団体をご紹介します

維持管理作業に加えて公園を利用したイベントを行う団体についての声が多かった。たとえば、自然素材を使った工作体験教室や防災キャンプ、昔遊び、水遊び、虫取り、流しそうめん、鯉のぼりの吹き流し、灯籠祭、焼き芋大会、ミニコンサート、気球体験会、ツリークライミングなど、地域の人々のアイデアと熱意で様々なことが行われている。

そのほかにも、幼稚園・小学校・中学校・高校などそれぞれ地域の学校と連携して活動する団体、花や緑を通じて来園者や近隣の人々の目を楽しませている団体、緑地の湧水を使った水やりなど工夫をしながら活動する団体など、多くの情報が寄せられた。

（一部を紹介）

公園利活用やイベントなど

- ・A公園では、ボランティア団体の方々が維持管理作業だけでなく、公園を利用した様々なイベント（鯉のぼりの吹き流し、灯籠祭、焼き芋大会、ミニコンサート等）を行っており、公園が地域交流の場となっている
- ・緑地のあるB公園では、ボランティア団体が緑地保全、公園の清掃、地域コミュニティづくりの活動をしており、昔ながらの遊びイベント、流しそうめん、虫取り等を開催している
- ・市民主体での水遊びイベントや気球体験会などを公園で行う地区、市民主体で緑地の整備・活用やトイレの設置等を継続的にやっている地区、自治会主体で公園で防災キャンプをやった地区などがある
- ・自然の素材を使った工作体験教室「ネイチャークラフト教室」を地元のボランティア団体が公園内でのイベント等で実施している
- ・C公園では、地域子どもたちとチューリップを植えるイベントを開催している。子どもたちの名前のプレートもつけるので、自分が植えたチューリップの様子を伺いに継続的に公園へ足を運ぶきっかけとなっている

新たな担い手拡大へ

- ・D公園では、近くの幼稚園が団体登録を行い、園児も先生と一緒に活動に参加している
- ・小学校に隣接するE公園では、地域の方々が子ども達と協力しながら公園清掃や花植え等を行っている
- ・学校の取り組みとしてボランティアを行っているところが複数ある
- ・今年度2件、地元の小学校・高校とのタイアップの事例があった。アダプト団体の課題として高齢化が挙げられる中で、これらのように若い力が加わるのはとても明るい話題なので、担当者としても今後注目していきたい
- ・F公園にはスケートボードができる施設があり、プレイヤーの方が花を植えたり、ごみを拾ったりして美しく維持されている

ステキな取り組み

- ・G公園では、アダプト団体が通りに面した場所にハンギングバスケットの設置を行い、道行く人々の目を楽しませている
- ・公園で行われるラジオ体操の時に、公園愛護会活動について来ている子供や親に周知をしている
- ・ツリークライミングを行っている団体がいる
- ・緑地の湧水を使って水やりしている
- ・崖線や緑地では造園業者と連携して選別除草を行っている

9) 参考にしたい情報

【Q】 他自治体の取り組みで興味があるものがあれば、教えてください

公園利活用推進に関する取り組み、花や緑の市民協働に関する取り組み、官民連携に関する取り組み、民間が主体で行われている取り組みなど、全国で行われている様々な取り組みについての情報が寄せられた。

(一部を紹介)

公園利活用に関する取り組み

- ・大阪市『みんなで公園活用事業（愛称：パークファン）』
- ・川崎市『公園等における持続的な協働の取組～「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」の実現～』
- ・福岡市「コミュニティパーク事業」

花や緑の市民協働に関する取り組み

- ・福岡市「一人一花運動」
- ・福岡市「公園愛護会」の基本活動に追加して行う「選択活動」の制度。基本活動に加え、低木の剪定や、便所清掃などの活動を実施された場合に、基本活動の報償金とは別に、選択活動の実績に応じた報償金を交付する制度
- ・神戸市「花壇コンテスト」。道路沿いや公園内の花壇について、地元団体に管理を依頼し、植え方、生育管理等の出来栄でコンテストを実施している（地元自治会等の団体対抗）
- ・練馬区「区民協働花壇事業」。ボランティア団体毎に委託契約をし、物品購入から維持管理まで委託している。契約金額は1㎡/1万円で、公園の利用者数等は加味しない
- ・栃木県小山市「公園等愛護里親会」。活動がマニュアル化されている

官民連携に関する取り組み

- ・神奈川県茅ヶ崎市「PARKFUL Watchを活用した取り組み」。行政と愛護会の連携ツールとして
- ・姫路市とリビングソイル研究所との協働事業「公園にコンポストを設置する取り組み」
- ・むつ市の「PARK DAIKANYAMA」トレーラーハウスを活用した代官山公園内にあるグランピング施設

民間主体の取り組み

- ・豊島区 池袋発の「Cleanup & Coffee Club」
- ・世田谷区「シモキタ園芸部」

【Q】 みんなの公園愛護会で調査してほしい項目などあれば、教えてください

公園ボランティアの高齢化への対策や新たな担い手発掘に向けた他自治体の取り組み、菜園やプレーパークなど公園ボランティアの様々な活動事例、ゆるく公園管理に関わる仕組みづくり、デジタル化の取り組みなどの様々な事例が知りたいという回答のほか、活動費の算出規定や表彰の基準、研修の内容、人口減少に対応した公園づくりや維持管理手法、ボランティアによる除草の手間を減らす方法など、広く様々な声が寄せられた。

(一部を紹介)

自治体の取り組み（担い手発掘など）

- ・担い手発掘の方法を共有してほしい
- ・担い手確保に向けた取組について他都市でどのような取り組みをしているか教えていただきたいです
- ・愛護会の担い手減少問題の解決策、愛護会活性化の成功例について

- ・新規団体や若者の参入が多い自治体の取り組み
- ・高齢化や担い手不足に対する効果的なサポート
- ・愛護会の高齢化対策
- ・公園管理団体の新規登録につながった事例・手法など

ボランティアのさまざまな事例

- ・若者が中心の愛護会
- ・公園愛護会がプレイパークを開催している事例がありましたらお聞きしたいです
- ・公園ルール作りを円滑に進めた事例
- ・都市公園内での菜園をおしゃれに若年層中心でやっている事例
- ・特に愛護会未設立の公園で、新規団体の設立に成功した事例等あれば知りたいです

仕組みづくり

- ・ゆるく公園管理に関わる仕組みづくり
- ・地域住民主体の管理運営の仕組みや導入方法
- ・愛護会活動に関するデジタル化の取組
- ・行政と活動団体との関係性

支援方法関連

- ・花壇管理をする活動者と清掃だけする活動者との交流の場の工夫
- ・団体に対する謝礼金や報奨金の規定、表彰の規準
- ・各自治体から愛護会への報酬等の金額・条件等
- ・愛護団体への経費算出方法、補助内容
- ・活動における配布品として愛護会員の方が欲しいもの
- ・愛護会向けに研修や講習会を行っているか。実施している場合、どのような内容で実施しているか。市外（管轄外）の公園への視察は行っているか
- ・ボランティア・ボランティア団体の把握方法、支援制度の条件、手続の方法

公園の利用関連

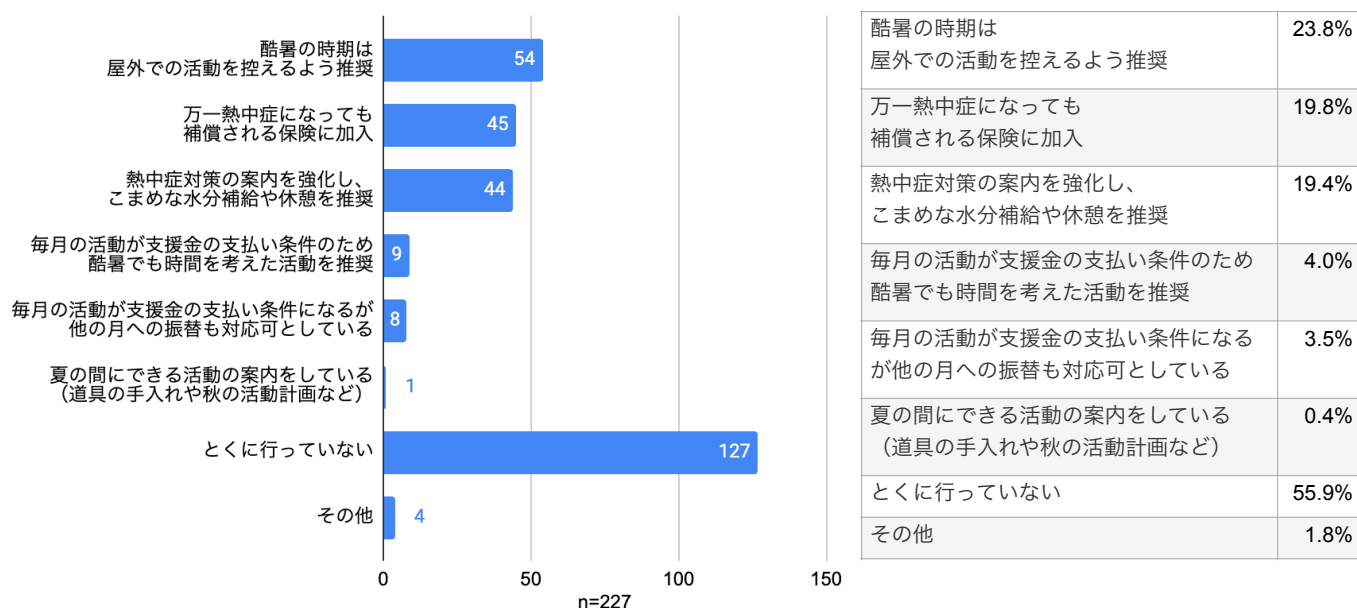
- ・既製遊具以外の遊び場を地域で手作りすることを、安全面メンテナンス面をクリアしながらどう進めるか
- ・グラウンドゴルフなどの団体に行為許可を出している自治体の数、公園利用者の間の争いの仲裁

公園の維持管理など

- ・人口減少に対応した公園づくりや維持管理手法、除草手間を減らす方法、公園利活用の手法（色々な事例）
- ・除草作業における草刈機や除草剤の使用について
- ・昨今の異常気象により草木の成長も早くなっている中で、ボランティア活動による草木の手入れについて、全国的にこういった取り組みがあるか知りたい
- ・土壌の質について
- ・公園や道路の除草や清掃、側溝の泥上げ等をしてくれるロボットを販売・リース・レンタルする会社はあるか調査をお願いしたい
- ・公園数が多く、公園の整理(廃止)を進めたいため、公園整理の事例、方法
- ・指定管理やP-PFIの成果として地元のコミュニティへの影響や、赤字化した事業がその後どうなっているか

10) 熱中症対策について

【Q】公園ボランティアの熱中症対策について、行っていることを教えてください

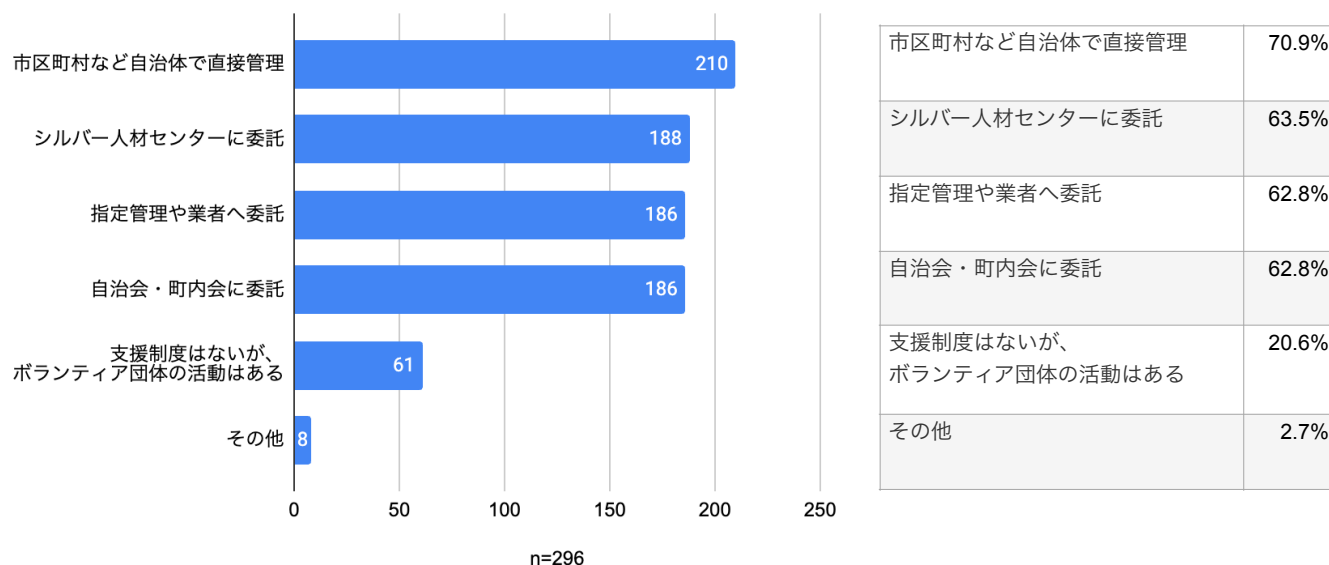


夏の暑さが厳しい昨今の熱中症対策についての質問。回答した自治体の55.9%がとくに行っていないということだったが、酷暑の時期は屋外での活動を控えるよう推奨している（23.8%）、万一熱中症になっても、補償される保険に加入している（19.8%）、熱中症対策の案内を強化し、こまめな水分補給や休憩を推奨している（19.4%）という回答が上位に入った。また、毎月の活動が支援金の支払い条件になっている場合でも、他の月への振替でも対応可とするなど、状況に応じて柔軟な対応をしている自治体もあった。

猛暑の時期で除草等が十分に実施出来ない場合は市が業者手配をして除草を行う事がある、酷暑での愛護会活動は無理をしないように伝え可能な限り市で手伝うとしている、交付金の用途として塩分補給用食品など熱中症対策の経費支出を認めているなどのコメントもあった。

1 1) 公園ボランティア制度がない自治体

【Q】公園ボランティアやそれに類する制度がない場合、小規模な公園の維持管理をどのように推進していますか？



最も多いのが、**市区町村など自治体で直接管理**（70.9%）。次に、**シルバー人材センターに委託**（63.5%）、**指定管理や業者へ委託**、**自治会・町内会に委託**（ともに62.8%）と続いた。

小規模な公園については、地域の公園として地元自治会が事実上管理を行っているというコメントや、小規模な公園の下草刈り等は、規模や公園施設によって「業者委託」「シルバー委託」「自治会への清掃謝礼金」で分かれており、トイレや街灯等の公園附属施設の維持管理は、内容によって「業者委託」「直営」で対応しているなど、規模や内容によって複数の方法で維持管理しているというコメントもあった。

支援制度はないものの清掃や花壇などボランティア団体の活動はある自治体も20.6%あり、制度の有無に関わらず人々が地域の公園育てに関わっていることがわかる。

調査を終えて

今年度は、全国自治体調査を主軸とし、全国の市および東京23区を対象に公園ボランティア制度全般に関する内容をお聞きし、とても多くの声を集めることができました。活動実態や課題を調査した2021年の調査から3年経過し、基礎情報のアップデート版ができたのではないかと思います。ご協力ありがとうございました。

公園ボランティアは、まちの魅力を高めるパートナー

公園ボランティアの価値や効果について、2021年の調査では「街区公園の維持管理のコスト削減」と「地域住民による公園利用の活性化」がほぼ同数で1位になっていたのが、今回は「**地域住民による公園利用の活性化**」と「**地域コミュニティの活性化**」が「街区公園の維持管理のコスト削減」を上回る結果となったのが印象的でした。

また、この3年間でみんなの公園愛護会としても様々な人たちに話を聞き、公園ボランティア活動がさまざまな価値を生んでいるという実感から選択肢を増やしたところ、新設の「**まちの緑の質の向上**」や「**生きがいや居場所づくり**」にも6割近い回答者がその効果があると評価したことも、さらに心強い結果となりました。

公園ボランティア活動は、維持管理作業を行う行政の下請けではなく、公園を含めた地域の魅力を向上するためのパートナーであると多くの自治体職員が認識していることが改めてわかり、**公園ボランティアの価値が見直されている**ことを感じます。

多様な人が、より活動しやすいサポートへ

公園ボランティア活動によって、公園が気持ち良い場所になり、より多くの人が公園を利用することに繋がっています。また活動に参加することで、地域に友達ができたり、**ウェルビーイングやフレイル予防**にも繋がっていることを、多くの人が教えてくれています。

一方で、高齢化と担い手不足が共通の課題だと長年言われ続けている現状もあります。働き続ける高齢者の増加やライフスタイルの多様化で、これまでと同様の枠組みでは立ち行かず、**時代やニーズに合わせた柔軟な形が求められている**ことも感じます。

一部の人たちが頑張る続けるのではなく、**多くの人が少しずつでもゆるく楽しく公園のお手入れに関われる**ような仕組みやサポートを、企業や学校も含めたさまざまな声を聞きながら、地域に根差した形で工夫して作っていったら、ともに公園を育てる人の裾野が広がり、地域コミュニティの充実にも繋がっていきそうです。

みんなの知恵を集めてともに

みんなの公園愛護会で調査してほしい項目についても多くの声をいただき、全国の自治体職員や公園ボランティアのみなさんに役立つ活動が少しずつ出来てきた手応えを感じています。個別の取材活動も継続しながら、**推しの公園を育てる活動を盛り上げていきます**。

今回の調査では熱中症対策についての設問を作りましたが、近年の急激な気候の変化やさまざまな問題にどう対応していくか、**知恵を出し合ってともに乗り越えていける**よう、これからも広く情報を集め、発信していくことで、公園ボランティアおよび公園ボランティアをサポートする自治体のみなさんを応援していきたいと思っています。